

令和8年度（第65回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【コメ輸出の道を農家3人で切り拓き、輸出を通じて地域の活性化に貢献】

## 《スケジュール》

13:30~16:00

(敬称略)

- |   |   |           |   |               |
|---|---|-----------|---|---------------|
| 1 | 開 | 会 (13:30) | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事                             | 小栗 邦夫         |
| 2 | 挨 | 拶         | 農林水産省輸出促進審議官<br>芦別市長                              | 三野 敏克<br>北村 真 |
| 3 | 選 | 賞         | 農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査<br>(農研機構・中日本農業研究センター経営支援研究部長) | 宮武 恭一         |
| 4 | 業 | 績         | 令和7年度農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞<br>株式会社芦別RICE 代表取締役会長      | 沼田 哲男         |

・・・休憩 (14:30~14:40) ・・・

- 5 ディスカッション (14:40)  
(登壇者)
- ・コーディネーター  
宮武 恭一 (3に同じ)
  - ・業績発表者  
沼田 哲男 (4に同じ)
  - ・コメンテーター  
角田 毅 (農林水産祭中央審査委員会経営分科会委員  
(東北大学大学院農学研究科教授))  
小栗 史也 (アクセント株式会社プリンシパルディレクター)  
山波 剛 (有限会社山波農場代表取締役社長)  
太田 訓英 (北海道農政部食の安全・みどりの農業推進局  
食品政策課農業付加価値向上担当課長)

(内容)

- ・意見交換、質疑応答
- ・総括

- 6 閉 会 (16:00)

令和8年 6月 10日:紙パルプ会館

# 令和8年度(第65回)農林水産祭 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」

コメ輸出の道を農家3人で切り拓き、  
輸出を通じて地域の活性化に貢献



## 選賞審査報告

農林水産祭中央審査委員

経営分科会主査

宮武 恭一  
(農研機構)

## 【農林水産祭の趣旨】

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施。令和7年度は64回目。

## 【農林水産祭選賞部門】

- 農産・蚕糸部門
- 園芸部門
- 畜産部門
- 水産部門
- 林産部門
- 多角化経営部門
- むらづくり部門
- 女性の活躍

## 【授賞区分】



天皇杯



内閣総理大臣賞

日本農林漁業振興会  
会長賞

## 【第64回農林水産祭選賞経過】

・**選賞対象**: 令和6年7月～令和7年6月の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞した453点の出品財のうち、経営・多角化部門の審査対象数13点

### ・**選考委員会**

#### ＜経営分科会選考委員＞

宮武恭一（主査：農研機構）、澁谷美紀（農研機構）、  
角田 毅（東北大学）、本田恭子（岡山大学）

#### ＜経営分科会専門委員＞

植木美紀（日本獣医生命科学大学）、  
久賀みずほ（鹿児島大学）、仙北谷康（帯広畜産大学）、  
徳田博美（名古屋大学）、中尾克代（DX経営研究所）、  
西山未真（宇都宮大学）、山田敏詩（こと京都株式会社）  
山本信次（岩手大学）

## ・選賞経過

- 令和7年7月1日 農林水産祭中央審査委員会  
芦別RICEは輸出に取り組む優良事業者  
表彰より出品
- 〃 7月8日 第1回経営・多角化分科会にて書類選考  
現地調査候補の選定
  - 〃 7月30日～8月12日 現地審査
  - 〃 9月9日 第2回経営・多角化分科会にて三賞選考
  - 〃 10月1日 農林水産祭中央審査委員会にて三賞決定

## ・天皇杯：株式会社芦別RICE（北海道）



天皇杯授与式  
(令和7年11  
月23日、明治  
神宮会館)

# 【令和7年度農産・蚕糸部門天皇杯受賞理由】

## ・受賞者の取組の経過と経営の現況

少子高齢化に伴い将来の国内需要が先細りとなる中、農協合併により「芦別米」の名が消えること、地域の農地と人口の減少が進むことに危機感を感じ、平成23年に地元の若手農家3人で農業生産法人を設立し、平成27年に米輸出の取組を開始した。

香港を皮切りに、シンガポール、米国と輸出先を広げ、令和6年には24戸、228haの協力農家を含め1,287tのコメを輸出しており、生産者自身によるコメ輸出の取組としては、全国最大級となっている。



## ・受賞者の特色

### (1) 輸出拡大に向けた取り組み

若手農家3人が香港向けに始めたコメ輸出であるが、農機メーカーによる玄米輸出との連携により、大幅に輸出規模が拡大した。さらに、**海外現地との直接取引のためにISO22000を取得**、また FSSC22000 も取得し、欧州への精米輸出を目指し精米施設整備を行ったところ。また **TPP に加盟した英国向け精米輸出も視野に入れており、新規の販路開拓と共に順調に輸出量を伸ばしている。**



国際規格 ISO22000

## ・受賞者の特色

### (2) スマート農業により若者をつなぎとめる

ロボット田植機や無人トラクター等の最先端技術の導入により、大区画整備された水田で、代かきと田植え作業の時間を半減させるとともに、新しい技術に関心を持つ若者を積極的に雇用し人手不足を解消した。さらに冬季の仕事として道内の防除用ドローン200台の点検整備、防除スクールの運営を受託している。



ロボットトラクターによる均平作業



ドローンの整備作業

### (3) 女性の活躍

女性社員も積極的に企画会議に参加し、商品開発や広報・デザインなどを担っている。地元の道の駅の農産物販売店を事業承継した際は、地域の女性8名を雇用。

## ・普及性と今後の展開方向

令和6年に立ち上げた「芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会」では、農機メーカーなどの協力を得つつ、輸出の取組を広げ、令和7年には、北海道全域で農家36戸／2団体／3業者が参画するまでになっている。

また、第3者継承を視野に、若手社員を後継者のいない農家や農業法人に派遣するなど、芦別の農業を次世代にバトンタッチする橋渡し役を担おうとしている。



香港フードエキスポ出展風景



ハワイに向けた輸出米の積込作業

**農林水産省  
公益財団法人日本農林漁業振興会主催**

**令和8年度（第65回）農林水産祭  
優秀農林水産業者に係るシンポジウム**

**コメ輸出の道を農家3人で切り拓き、輸出を通じて  
地域の活性化に貢献**

**業績発表者  
令和7年度多角化経営部門天皇杯  
株式会社芦別RICE取締役会長 沼田 哲男**





株式会社芦別RICE

ビデオ①をご覧ください

## 3人の農家の無謀な挑戦

芦別産のお米を世界の食卓へ届けたい

誰も知らないまち“**北海道芦別市**”

～“無謀”が“希望”に変わる瞬間が訪れる～



## 地域の概要

北海道のほぼ中央旧産炭地。  
人口減少が急速に進んでいる。

### 無名な町

悔しいですが、他の市町村の名前を借りて  
の説明になります。

旭川の下！  
富良野の左です。

# 沼田 哲男（1965年4月25日生 61歳）

“沼田哲男は、今、非常に緊張しています 🍌 🍌 🍌

- 田舎者で口下手、人前に出るのが苦手です 🍌
- 褒められると伸びるタイプです 😊
- 調子にものります 😊



# 座右の銘：仕事を取るより笑いをとれ

（“すべる”の分かっていても笑いを取りに行く）

趣味：浜田省吾さんライブ観戦

長年追いつけて来た、（芦別市出身）元広島カープ高橋慶彦

彦さんと5年前から交流。社内に“高橋慶彦ミュージアム”を設置。（願えば叶う！夢）

浜田省吾さんと高橋慶彦さんは大の親友。 夢 いつか（浜田さんに）会える気がします。

・お二人の持つ『プロフェッショナルとしての熱い生き様』に深く共感。

・彼らのエネルギーを感じることで、自分自身の挑戦の原動力。





## 沼田哲男と芦別RICE

**1984年（18歳） 芦別高校卒業後、呉服問屋に就職**

**1987年（22歳） 就農（タクシー運転手 兼業農家 水田5ha）**

2002年（37歳）

農業生産法人あしべつグリーンファーム設立

110ha集落営農（限界集落 農地集積）

2018年 ロボット田植機・ロボットトラクター・ドローン導入

2010年（45歳）

株式会社芦別RICE設立（株主100%生産者 8戸）

コメ精米・卸・コメ輸出業

ドローン事業（請負/教習/整備/販売）

2019年（54歳）

お米の登録検査機関の取得



2024年 農林水産大臣賞受賞（輸出に取り組む事業者表彰）

芦別市道の駅直売所運営

2025年 令和7年度第64回農林水産祭天皇杯多角化経営部門受賞

国際基準FSSC22000取得、精米施設整備

芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会設立

2026年 輸出米2200トンの計画

オファーを実現するために、北海道全域へ輸出米の拡大推進



# 芦別RICEのイメージ



芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会

北海道  
生産者  
17戸

芦別市  
生産者  
24戸

株式会社芦別RICE



# 農家がどうして(直接)輸出？

★どうして輸出に取り組んだのか…“動機は不純”

- ・海外に行ってみたかった。
- ・“輸出”“海外”にステータス感を抱いた。
- ・なんとなく、かっこ良い！

※構想から約2年間は輸出には至らなかった。

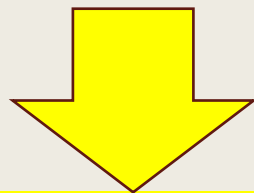


香港フードエキスポ風景1



香港フードエキスポ風景2

少子高齢化に伴い将来の国内需要が先細りとなる中、農協合併により「芦別米」の名が消えること、地域の農地と人口の減少が進むことに危機感を感じ…



**(株) 芦別RICEを設立**



道の駅直売所

**(正直) 輸出なんて、誰も信じてくれませんでした・・・**

～～無謀な志は、非常にダイナミックすぎました～～

北海道芦別市が誇る高品質米→**日本国内に留めず世界へ届けたい！**

※大嘘つき、ホラ吹き、オオカミ少年・・・**沼田の妻も信じない！エピソードetc.**

周囲の風当りの強さに、心が折れた・・・。

「たかが農家が何をやってるんだ！まじめに農協に米出せ！」・・・叱られた。

**志を同じくする仲間たちが現れた・・・挑戦を支えてくれた仲間の農家・・・**



## 👑 3人の輸出への想い（当時の会話）

### ・周囲の反対に負けない！

※「ダメだ」と分かることと、やる前から「ダメだ」とあきらめること、意味が全然違う。

### ・“できなくてもしょうがない”を言わない！

### ・楽な方法（カンニング/外注）は、考えない！

（結局、目標が遠ざかる）

年月を掛けて本物にする

**遠回り**することで、**信頼**が生まれた！…と**信じて20年**！

それが、一番の近道だった。

遠回りすることで、市内24戸/北海道内17戸の農家との強固なネットワークに支えられていることも、この「**遠回り**」による**信頼構築**の証と考えます。

### ・逃げる理由はいらない/言葉を結果に変える（“ホラ”ふきにならない）

**「地方だから」「農家だから」といった妥協はしない！**

**芦別から世界**という壮大な**目標**に向き合い続ける姿勢を絶対変えない！



この挑戦は、3人の農家の  
“海外旅行”が始まります。

百聞は一見に如かず

- ・目で見たものは、なぜか身近に感じます
- ・想像より肌で感じる

この“農家のお遊び（輸出）”にお付き合いをしてくださったのが（株）クボタさんでした。

とても大切なパートナーです！！この会場にお越しくださっています（^^♪



自分の作ったお米が、どこで食べられているのが見える 🍚

## 生産・流通の壁を突破

### 集出荷の透明性（生産者別検査後、生産者の名前そのまま出荷）

- 課題
- ・（カントリーエレベーター等）大量集荷では個々の努力が埋没
  - ・品質向上の意欲が削がれる。

取組 芦別RICEは、お米の登録検査機関となることで、異なる生産者の米がブレンドされことなく海外現地へ出荷することが可能になりました。

**「誰の米か」**を明確にした状態で集荷/出荷・パッキング。  
**生産者の名前入りで輸出（玄米）**。

これにより、生産者個々の**品質への強い責任感**を生んだ。

個々の農家＞世界規格を“ちゃんと”作る＞「仕組み」作り



農家（生産者）は、褒められると伸びるタイプです 😊

“おいしい”は、農家（生産者）の最高の誉め言葉！

・玄米輸出→精米輸出 付加価値（所得向上）

・生産者ごとに米の検査

・現地からリピート

・生産者指定により、“やる気”ができる

・褒められると“うれしい” 農家こどもと一緒に(\*^-^\*)

・生産者を現地へ！（取引先の信用の獲得）



生産者を現地に派遣▲  
(現地の日本食シェフから「おいしい！」と褒められました。)

## 農家が農家への技術支援

- ・輸出に不慣れな近隣農家にアドバイス
- ・現地ニーズを踏まえた輸出向け作付面積の調整
- ・輸出取組への支援とサポート
- ・参加のハードルを下げる。

結果、**輸出ロット（供給量）**を確保



▼芦別市長も毎年農作業(種まき/田植え/稲刈り)



# 株式会社芦別RICE 令和7年産輸出実績及び令和8年産輸出計画

参画地域	芦別市/滝川市/深川市/美唄市/岩見沢/長沼町/雨竜町/秩父別町/旭川市/新篠津村/石狩市/愛別町/美瑛町
対象品目	玄米及び精米（ななつぼし/ゆめぴりか/ふっくりんこ/えみまる）
対象国・地域	米国/英国（ケイマン諸島含）/エストニア/フィンランド/香港/シンガポール/ドイツ/フランス

## 生産量推移（ト）

平成16年産 （初年）	令和6年産 （実績）	令和8年産 （目標）
450	2,610	3,500

## 輸出量推移（ト）

平成27年産 （輸出初年）	令和6年産 （実績）	令和8年産 （目標）
6	1,290	2,200

## 輸出額推移（百万円）

平成27年産 （輸出初年）	令和6年産 （実績）	令和8年産 （目標）
2	209	230

R8.6.1  
申込  
1,838ト  
  
あと  
少し

## 輸出の実情と課題

- 令和7年産
  - 中東情勢→影響大
- 令和8年産
  - 北海道米の出口→無限大（芦別RICE取引先/国）
  - 令和8年産実際のオファー数量 2,600ト（供給不可）
  - 令和9年産オファー数量 3,300ト
    - ・供給ペースの最適化
    - ・再配分の要請（複数年のスローペース市場投入を要請中）
  - オール北海道の提案（芦別RICEのキャパが超えました。）
    - ・施設の問題
    - ※令和9年度補助金を目指す
    - ※令和10年3月完成 精米施設/玄米保管庫整備予定

北海道米の出口は、まだまだ確保されています。  
他府県産より一歩リードしています。

# "世界に届け！"



芦別米を  
世界のどこでも  
食べられる  
プロジェクト発信！



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
Delicious Japanese Rice



## 2025年プロジェクトのスタート





# 芦別RICEの“あしべつ米”“北海道米”の強み”

- ・行政と一体感
- ・生産者のプライド
- ・使命感
- ・生産者直（産直）→価格の安定性/安価提供
- ・農家精米→FSSC22000国際基準取得  
→しっかりブランド
- ・地元高校生（芦別高校）とのコラボ  
パッケージ類のデザイン、スイーツ開発etc.



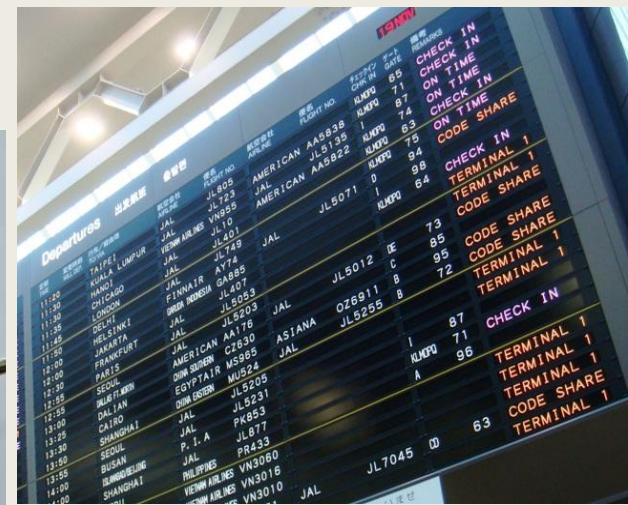
# 芦別高校生と一緒に地元“芦別市”を世界に発信

目標：（子供達）高校生を世界へ

“芦別高校ブランド”を世界に！

スイーツ/お菓子を開発中！  
スイーツ店（札幌圏 焼肉チェーン）とコラボ  
“あしべつ米”米粉使用

夢：フィンランド/エストニア



# スマート農業～ロボット化～

- ・人手不足に対応
- ・大区画圃場整備済につき安易に導入できた
- ・新技術に関心のある若者が増加（雇用）





この自動ロボットトラクターの中では・・・  
ネットフリックス視聴中（内緒です！）

※オフレコ事例スマート農業（ロボット化）の豆知識

安全上、運転席に座っていますが全自動です。

若手社員からの報告事例…

『田んぼ起こしてきました。ネットフリックス6本見れました！』

芦別RICEは、ネットフリックス見放題！



芦別RICE



2026年の作業が  
始まりました!

1分程度のビデオをご覧ください



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
Delicious Japanese Rice



みなさんから「成功の秘訣？」、とよく聞かれます。  
スタートから、真似をするにも見本がありませんでした。  
成功したのか、成功していないのか…分かりません。



みなさんが、たくさんつないでくださったことに、感謝でいっぱいです。  
人が人をつないでくださっている実感はあります。嬉しいです。  
まだ、私の眼には“ゴール”は見えていません！



「北海道のど真ん中、誰も知らない町で、たくさんの  
仲間と走っている農家がいる！」…思い出してください。



株式会社 芦別RICE精米所

ISO22000 認証精米施設

株式会社 芦別RICE  
農産物検査場

株式会社 芦別RICE 米定温貯蔵調整施設

北海道うるち米

北海道うるち米

北海道うるち米

自慢の仲間たち



今は、情報社会。AIも文明として受け入れます。

でも、目で見て肌で感じた好奇心は本物になります。

失敗も重要です。失敗大好きです。

“悔しい”“失敗した”繰り返し・・・その結果が今日です。

**発っしないと（言葉にする）、未来はありません！！**

今考えたら、やらない選択も当時にはありましたが、やった方が良かったとつくづく実感しています。

輸出・・・たくさんの、経験をさせて貰っています。

感謝です。

たかが、“農家のおじさん”ですが、引き続き挑戦させてください。

An aerial photograph of a vast field with alternating rows of green and reddish-brown plants. A small red tractor is visible in the upper right quadrant, moving across the field. The field is divided into long, parallel rows that create a strong sense of perspective.

たかが、“農家のおじさん”ですが、

引き続き挑戦させてください。

ご清聴ありがとうございました。

輸出してみませんか(^^)/